

「へのトビラ」を紹介します！

でのボランティア経験者が、外国の文化や料理、ボランティア体験を紹介するものです。

調理実習

「食べ物」はその国の
お国柄や特色が出やすいもの。調理方法
だけでなく、食習慣や
食にまつわる文化も合わせて紹介することで、
異文化に対する理解をより深められるようにし
ています。



<実施例> ロシア出身の講師による 調理実習(高校)

広いロシアでは地域によって食文化が大きく
異なることなどを話していきます。

まずは、ボルシチとピロシキ作りのデモンス
トレーション。調理実習ではロシア流の盛り付
けにもチャレンジしてもらいます。

生徒の感想

習ったロシア料理を文化祭で出品し、地域に
住む多くの方にもロシアの文化を知ってもらう
ことができてよかったです。

中学の時の体験が きっかけでした！

一海外に関心を持ったきっかけは何ですか？

国連でご活躍されていた緒方貞子さんに刺激を受け、小
学6年生頃から国際協力に漠然とした関心を持っていました。
具体的な目標となったのは、中学3年生の時に経験した
アメリカへの海外派遣プログラム(加須市)がきっかけです。
多くの民族からなるアメリカを見て、将来は多民族社会における共存問題の解決に携わりたいと思うようになりました。

一目標に向けてどんなことを学びましたか？

大学では英語の習得と併せて、社会言語学と国際関係について学びました。3年次にはアメリカに留学しましたが、異文化に触れることで価値観が広がったと思います。また、ミャンマーへ行き、ユニセフが支援する学校の現状を知ったことで、民族や言語に関係なく平等に教育を受けることの大切さを学びました。

子どもの頃の外国人との交流を通じて、海外での問題に关心を持たれ、現在、目標実現のためにイギリスの大学院に留学中の 鈴木 涼子さんにお話を伺いました。

一今は「埼玉発世界行き奨学生」としてイギリスに留学しています。

昨年からイギリスの大学院で、世界各国から集
まつた学生と一緒に、途上国の教育支援について
学んでいます。大学院修了後は、少数民族の子
どもが自分の言語で教育を受けることができる
支援に関わりたいと思っています。

小学時代に緒方貞子さんに憧れ、中学時代の経験がきつ
かけで、将来の目標が定まり、今の自分につながっています。
改めて、好奇心を持って海外に行ってみて良かったと思
っています。国際協力の分野で活躍することで、生まれ
育った埼玉県に少しでも恩返しをしたいと考えています。



海外でのボランティア 経験者の体験談

JICA((独)国際協力機構)の青年海外協力隊の元隊員など、国際協力活動をしている方が、外国の様子や、海外生活でわかつた日本の良さといった、海外での体験を語ります。

<実施例> 中米・グアテマラで活動していた 元青年海外協力隊員による授業(高校)

プレゼンテーション形式で発表していきます。

- ボランティア活動の内容
- 海外に興味を持つようになったきっかけ
- 途上国の教育・食文化・紛争と平和について

生徒の感想

- 私はとても幸運な環境にいる。私にできることはなんだろうかと考えさせられた。
- 考えたことを実際に行動に移していくすごいと思った。尊敬した。私も何か一つでもチャレンジしてみようと思った。



二列目右から2番目が鈴木さん